心理学研究演習 II

科目ナンバリング　SEM-302
必修　　2単位

早川　友恵

1. 授業の概要（ねらい）
　自分や自分の置かれた状況を把握して適切に行動するために、「感じる」ことは、きわめて重要である。私たちが生きていく上で必要とする情報の80%は視覚によっていると言われている。本演習では視覚を中心モダリティとして取り扱い、様々な観点およびアプローチで、ヒトの視覚特性を明らかにしていく。研究手法には、行動実験や視線・重心動揺・脳波・自律神経系機能計測を用いる。
　 現在　取り組んでいることは、スポーツ視覚や視覚障害に関連する注意で拡大する周辺視野の見え方、光過敏や重心制御能力と自閉症の関係、視線制御と自己制御能力など社会性との関係、全体像を把握する時の脳波の振舞いなどであるが、もっと身近な簡単な課題にていねいに取り組むのも良いと思う。

2. 授業の到達目標
　視覚特性の観点から、ヒトの「こころ」の特性やメカニズムを理解する。また、グループ討論・発表を通して、自分の意見を論理的にまとめ、相手に分かりやすく伝える力を養うことを目標とする。

3. 成績評価の方法および基準
発表準備の状況および発表内容を総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献
教科書
特になし
参考文献
綾部早穂, 熊田孝恒 (編)　スタンダード感覚知覚心理学 (ライブラリスタンダード心理学)　サイエンス社
乾敏郎, 川口潤, 吉川左紀子 (編)　よくわかる認知科学　ミネルヴァ書房
ピネル（著）, 佐藤敬他（訳）　ピネル バイオサイコロジー 脳―心と行動の神経科学　西村書店

5. 準備学修の内容
文献を事前に読み、議論が出来るよう準備すること。

6. その他履修上の注意事項
教員がテーマを設定することはない。自ら問題を発見し、メンバーでディスカッションを重ねる中で、解決してほしい。

7. 授業内容
【第1回】　演習全体のオリエンテーションを行う。
【第2回】　研究（実験）を実施する。
【第3回】　研究（実験）を実施する。
【第4回】　研究（実験）の中間報告を行なう。
【第5回】　研究（実験）の中間報告を行なう。
【第6回】　研究（実験）の中間報告を行なう。
【第7回】　研究（実験）データの解析を開始する。
【第8回】　研究（実験）データの解析を開始する。
【第9回】　研究（実験）データの解析結果を報告する。
【第10回】　研究（実験）データの解析結果を報告する。
【第11回】　研究をまとめる。
【第12回】　研究をまとめる。
【第13回】　研究をまとめる。
【第14回】　研究をまとめ、予備報告会を行なう。
【第15回】　研究発表会を行なう。